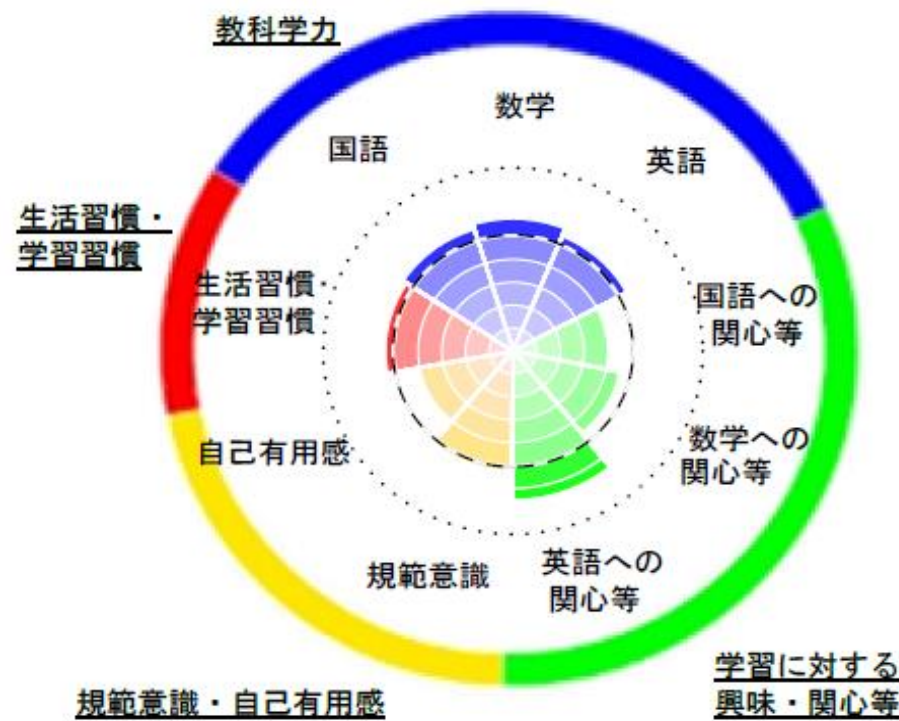


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○文章に表れている考え方について自分の考えを持つことができる。 ○話し合いの話題や方向を捉えることができる。 ●論の展開に適した語句を使ったり文を書いたりすることに課題がある。 ●構成や表現の仕方に着目し、書き手の意図や表現の効果について考えることに課題がある。	・様々な条件(目的、構成、根拠など)付きの小作文を書く機会を作り、表現の効果を意識して書く力を育てる。 ・語句や文法についてのミニテストを行い、文脈の中で正しい使い方ができるように練習させる。
数学	○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」すべての領域で、よく理解し、正確に解答できる生徒の割合が高い。 ○記述形式の問題の無回答率が低く、自分なりに表現しようとする意欲が高い。 ●「資料の活用」での基本的な用語を正確に覚えたり、数の概念をとらえたりすることに課題がある。	・自分から課題に取り組み、考えを伝え合う取組を続けていく。 ・結論から必要な条件を考えるなど、逆思考を積極的に行える課題を扱い、考え方ややり方を生徒自ら表現する機会を増やす。 ・学習方法や考え方を指導する機会を増やし、いろいろな方法を模索しながら粘り強く取り組む姿勢を伸ばす。
英語	○「聞くこと」の領域においては、正答率が高く、話されている内容を正しく聞き取ることができる。 ○語彙力があり、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる。 ●自分の考えを述べたり、条件にそって英文を書いたりすることを苦手としている生徒が多く、無回答率が高い。	・単語を英文の中で正しく活用できるように、小テストで継続的に練習する。 ・書く力をつけるために、場面やテーマにそって、まとまりのある英文を書く練習を取り入れていく。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



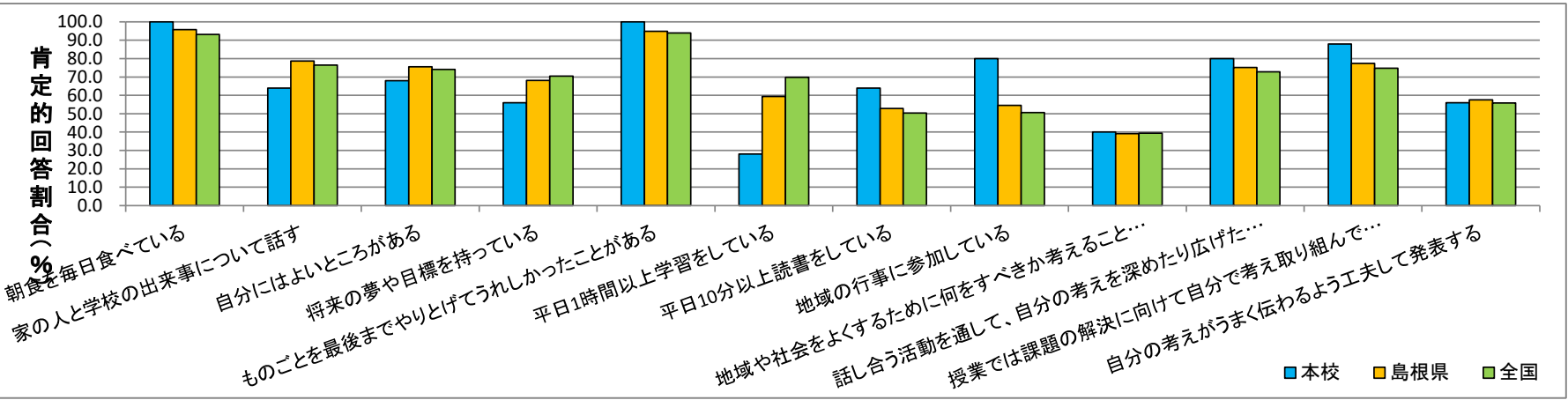
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
○肯定的な回答率が高い項目として、「総合的な学習の時間の取組」「地域行事への参加」「学級活動での話し合い」が挙げられる。日々の生活において、生徒自らが行動し、よりよい生活を目指して問題を解決する活動を取り入れてきた成果であると考え。 ○「ものごとを最後までやりとげてうれしかった経験がある」という項目に肯定的な回答した生徒は100ポイントであった。 ●「計画的な家庭学習」をしていると回答した生徒の割合が低く、家庭学習の時間が短い。 ●「解答時間は十分だった」と回答する生徒の割合が低い。	・生徒が積極的に活動し、やり遂げ、達成感を味わう機会を続けて設定していく。 ・補充学習や朝学習の充実を図り、学習方法について指導する機会を増やす。 ・家庭学習の計画を立てたり、取組について振り返りをする機会を増やす。 ・手際よく解答するために練習する時間をとることの重要性を指導する。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・島中スタイル(ユニバーサルデザイン)の視点を取り入れたわかりやすい授業を継続して行う。
・地域、保護者と協力し、子供たちの学校外の学びの場の充実を図る。
・この調査及び校内研究部アンケートをもとに、学年部ごとに課題を見つけ、その改善を図るための取組を行う。
・将来の夢や目標をもたせるよう1年時より計画的に進路学習を行う。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率 (％)

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	77	73	73	72.8
数学	66	60	57	59.8
英語	58	54	53	56.0

受検者数 25 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。